

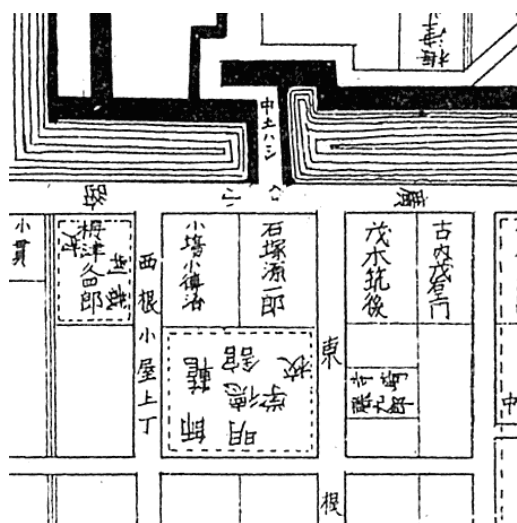
校地・校舎・校歌の今昔

戦前の師範学校時代

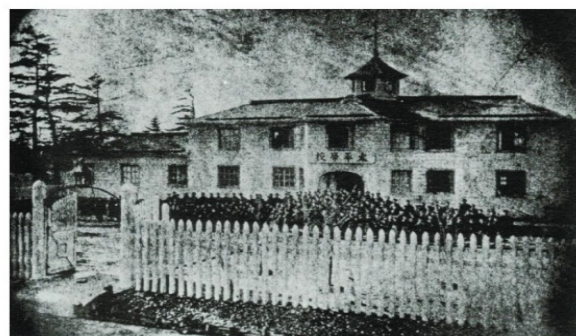
教育文化学部の前身は師範学校、その前は太平学校、伝習学校でした。伝習学校は 1873 年 7 月に秋田市下中城町(現在の千秋公園付近)に置かれ、太平学校は 1874 年 5 月に東根小屋町(現在の中通一丁目)。1874 年以前は藩校明德館、県庁があった。現在は県立美術館のあるエリア)に校舎が建てられました。伝習科、中等科、附属小学校が置かれます。



「太平学校」初代校舎（1874 年落成）



「秋田城郭市内全図」1868 年現在



「太平学校」再築校舎（1878 年落成）

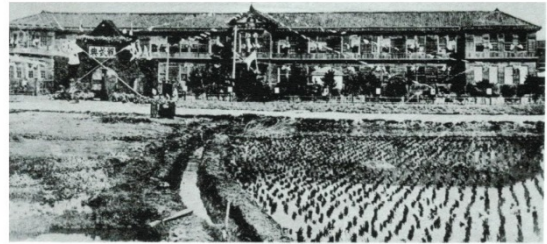
その後、1878 年に師範学校となりますが、1907 年 12 月に校舎が全焼した後、1909 年 9 月に手形(現在の教育文化学部所在地)に新築移転します。この校舎も 1927 年 12 月にほぼ全焼し、残った寄宿舍も 1928 年 2 月に全焼しています。このように火事が多いことは、冬の暖房と関わっているのでしょうか。とても立派な校舎で、今残っていればと悔やまれます。



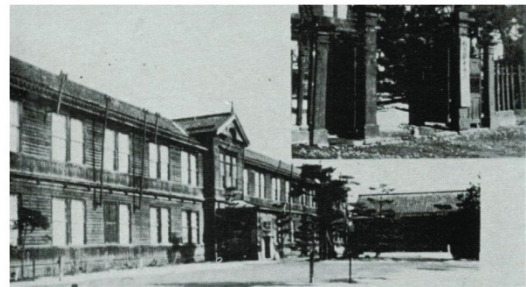
「秋田師範学校」中通校舎（1883 年落成）

師範学校は初等教育機関の教員を養成する学校で、年限は高等小学校卒業後 4 年(後に 5 年)、中等教育(旧制中学校等)修了者は 1 年(後に 2 年)でした。県立の中等教育機関でしたが、1943 年に官立移管されかつ専門学校と同格の教育機関に昇格し、青年師範学校も設置されました。卒業後の教員就職義務の代わりに授業料無償で、生活費・用品も一部支給されていましたが、軍隊式の寄宿舍生活や「師範気質(かたぎ)」などが批判の対象となります。戦前は小学校教員の待遇が低いことから、正規教員が不足していて、代用教員が多くいました。

女子師範学校は 1880 年に創設され西根小屋町中丁（現在の中通三丁目）に置かれます。師範学校の附属小学校から女児のみを分離して、女子師範附属小学校を置くことになります。1909 年に師範学校が手形に移った際に、その跡地に女子師範学校は新築移転します。その時、男児も女子師範学校附属小学校に移動し、師範学校の附属小学校はなくなります。代わりに、師範学校は、代用附属小学校として明德小学校を使用し、1915 年からは明德小学校を第一附属、旭川小学校を第二附属としました。1933 年に師範学校に附属小学校を新設することになり、外旭川小学校を代用附属としています。



「秋田師範学校」手形校舎（1910 年落成）



「秋田県女子師範学校」中通校舎（1910 年落成）

手形地区の整備

秋田鉱山専門学校は 1910 年の設立以来、現在の場所にあります。その隣に師範学校は 1 年早く移転していることになります。手形キャンパスの大学前の広い歩道は仁別まで続くサイクリングロードになっていますが、ここは昔、仁別森林鉄道の仁別線が走っていました。秋田駅から仁別までの 12.314 km、切り出した材木を載せて、秋田駅東側の貯木場まで運んでいたわけです。理髪店青木の近くから駅に向かう斜めの道はその線路の跡です。

この仁別線の建設開始が 1908 年で、開通が 1909 年でした。この開通に合わせて今のキャンパス付近が整備されたのでしょう。地名の手形（てがた）のがたは本来「潟」という話もあるように、このあたりは湿地帯でした。そのなごりは「谷地」「十七流」「蛇野」「からみでん」などの地名にも残っています。学部南側から太平山三吉神社に至る細い道が長らく主要道路で、バスも通っていたそうです。

森林鉄道は 1966 年に廃止され、線路は撤去されます。秋田駅東口の北側の広い空き地（旧貯木場）は、2006 年頃まで雪捨て場としても使用されていましたが、区画整理の結果、住宅地へと生まれ変わりました。



東北森林管理局 HP より



秋田貯木場：昭和 40 年代

秋田高等学校との関わり

手形校舎は火事で消失の後、1929年に保戸野（現在の附属学校園）に移転します。そして、1936年、秋田中学校（現在の秋田高等学校）が、手形の師範学校跡地に新築・移転されています。元々、秋田中学校は、1882年7月まで師範学校の中学校師範予備科でした。1945年9月、秋田中学校の校地・校舎が進駐軍に接収されたため、秋田中学校は別に移ります。

秋田中学校は1948年に新製の秋田南高等学校となり、1953年に秋田高等学校と改称され、1962年に現在地（手形字中台）に移転しました。また、1964年に秋田高等学校から定時制が秋田東高等学校として独立し、しばらく中通の元学芸学部校舎を使用します。秋田東高校は1967年に中通の秋田市民市場近く（現在は秋田文学資料館として使用）に移転した後、2005年に秋田明德館高等学校となり、中通の元師範学校・明德館傍に移ります。



「秋田県師範学校」保戸野校舎（1930年落成）

戦後のキャンパス統合

この保戸野校舎と中通校舎、そして、青年師範学校の跡地である四ツ小屋の農場が戦後の秋田大学学芸学部を引き継がれました。保戸野には学芸部（人文科学科、社会科学科、自然科学科）と附属中学校、中通には教育部（教育学科：教科教育を含む、職業学科：農業・家政、芸能科：音楽・美術、体育学科）と附属小学校・幼稚園が置かれました。

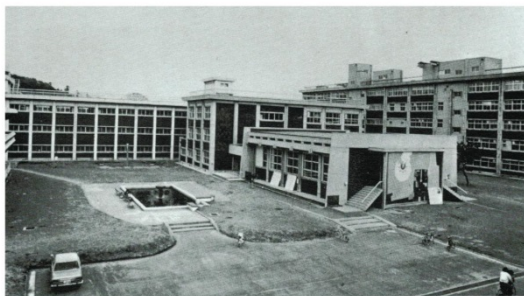
教員養成は戦前の反省に立って、大学での養成と開放制（師範学校だけが小学校教員養成を行う閉鎖制ではなく、どの大学でも課程認定を受ければ教員養成が行える原則）が取られます。学芸学部の名称は、教員養成だけを行うわけではないことと、全学の教養教育を担当する教員を包含していたことを意味するものでした。

進駐軍に接収されていた秋田中学校の元校舎は1945年12月に全焼します。手形は進駐軍がいなくなった後、空き地になっていたわけですが、学芸学部としては、学生が授業等のために保戸野と中通を行ったり来たりする不便を解消するため、手形地区に統合することが目指されます。文部省は長く戦災校舎の復興を優先しており、統合が遅れますが、ようやく1963年10月に、すべて手形キャンパスに移転が完了しました。学部1号館は1962年、3号館（当初は2号館と呼称）、4号館は1971年、5号館は1975年に完成しています。そして、空いた保戸野に附属学校園が集められます。1962年に小学校、1968年に幼稚園が中通から保戸野に移転します。

本学部は1967年に学芸学部から教育学部に名称変更しています。全国の学芸学部・学芸大学はこの前数年の内に名称変更しています（例外は東京学芸大学で、当時東京教育大学があったため）。教員養成「も」行う学部から、教員養成「を」行う目的養成、計画養成の学部となったのです。



「秋田青年師範学校」四ツ小屋校舎（1941年落成）

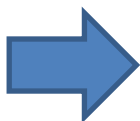


「教育学部3号館・4号館」（1971年落成）

平成 10 年学部改組の影響

教育学部 320 名

幼稚園教員養成課程	20 名
小学校教員養成課程	140 名
中学校教員養成課程	60 名
養護学校教員養成課程	20 名
情報科学課程	80 名



教育文化学部 290 名

学校教育課程	
教科教育実践選修	65 名
障害児教育選修	15 名
発達科学選修	20 名
地域科学課程	65 名
政策科学選修	
生活者科学選修	
文化環境選修	
国際言語文化課程	65 名
日本・アジア文化選修	
欧米文化選修	
国際コミュニケーション選修	
人間環境課程	60 名
自然環境選修	
環境応用選修	

教育学部時代、小学校教員養成課程の下に各教科副専攻と教育・心理副専攻があり、中学校教員養成課程の下に各教科専攻がありました。いわゆる「ゼロ免課程」「新課程」（教員免許を必修としない、または取らない課程）と呼ばれる情報科学課程は 1991 年に環境情報、社会情報の 2 コース 40 名でスタートし、1993 年に国際情報、数理情報を加えた 4 コース 80 名になります。

新課程設置は教員採用減に伴い、全国的に行われた措置でしたが、さらに教員採用数が減少する中、1990 年代終わりに横浜国立・新潟・山梨・福井・鳥取・大分・秋田・宮崎・佐賀大学で教育学部から新名称の学部への改組が行われました。秋田大学では長らく人文社会系学部の新設が求められてきましたが、実現しませんでした。1998 年の改組後、三つの新課程に対応した大学院を作るため、教育学研究科の改組（教育文化研究科など）が目指されますが、文科省が認めるところにはなりませんでした。

この際、数学、物理、化学、英語、情報の一部の教員が工学資源学部、医学部に異動します。本学部だけでなく、鉱山学部と 1970 年からは医学部の教養教育を担当する教員も本学部にも所属していて、それが 1998 年改組の際に、各学部に分属することになったのです。それまで教養教育は、一般教育と称されていましたが、改組後は教養基礎教育と称されるようになります。一般教育 1 号館、2 号館の呼称はそのなごりです。



一般教育 1 号館（左）と 2 号館（右）

2004 年の国立大学法人化の前後には、北東北三大学（秋田、弘前、岩手）による統合協議が行われ、3 大学の教員養成系、人文社会系学部の在り方が検討されましたが、改組等には至りませんでした。法人化により、大学教職員は非公務員化され、学長、副学長等の理事が役員として、大学の経営にあたる体制が作られ、評議会は教育研究評議会とされて、教育研究面に権限が制限され、学外者の入る経営協議会が組織されます。学長選考は、評議会ではなく、学長選考会議が行うことになりました。それまでの国立学校特別会計は廃止され、各国立大学法人に運営費交付金が渡されますが、毎年 1 % 程度減らされ、さらに競争的配分枠が拡大していきます。

耐震改修と冷暖房

3号館は2000年、4号館は2008年、5号館は2012年、2号館は2015年度に耐震改修されました。3号館の耐震改修は、耐震のための構造材が壁と一体化しているのに対して、4号館、5号館は建物の外側に作られて、建物を支える形となっています。4号館の改修前はエレベーターが2基あったものの、経費節減のためか1基しか使用されていませんでした。その1基分のスペースは今障害者用トイレになっています。

5号館の改修は遅れていましたが、東日本大震災の影響もあって、附属教育実践研究支援センターも含めて改修が実現しました。5号館にはこの際にエレベーターも設置されました。また、5号館の1階部分は通り抜けられるようになっていたものを、部屋の配置を変えて通り抜けられないようにして、1階の大部分を臨床心理相談室としました。それ以前、臨床心理相談室は通り抜け部分を挟んで2箇所に分かれ、寒い冬などは一旦外気にさらされて移動しなければならず、大変でした。2002年に教育学研究科に心理教育実践専修が設置された後に、臨床心理相談室が置かれるわけですが、それ以前は、北側が演習室とトイレ、南側がセンター用講義室として使われていました。



中央図書館（左）と教育文化学部3号館



教育文化学部4号館（左）と5号館（中央）と
附属教育実践研究支援センター（右）

耐震改修と同時にガスヒートポンプによる冷暖房となり、随分快適になりました。昔は竿灯祭りを過ぎれば涼しくなっていたものが、近年、8月中下旬まで暑い日が続くようになり、うだるような暑さを耐えて教育・研究にあたっていました。以前、大学の前期の授業は7月20日頃に夏季休業となり、9月に再開して、授業、最終試験などを行っていました。8月初旬まで連続して授業、最終試験を行うようになったのは、2005年度からです。

暖房はボイラー（重油）によるスチームでした。輻射熱なので、芯から温まるような心地よいものでしたが、17時頃になると止まってしまうこと、11月の寒い頃にならないと稼働せず、寒い思いを長くしていたこと、人のいない教室もすべて暖房が入り、温度調節も難しく、エコとは言えなかったこと、スチームが入ると、甲高い金属音がなり響いてうるさかったこと、重油によるボイラーの運転が必要で、老朽化で配管からの重油漏れ、水蒸気・水漏れなどが発生していたことなどが欠点でした。ただし、今の暖房はなかなか部屋が温まらないこと、大中教室のフィルターの清掃が難しいことなどが課題です。

2010年に駐車場がアスファルト舗装されました（図書館前等のアスファルト舗装はブロックとなります）。それまでは砂利のみで除雪もされず、雪の季節にはスタックして動けなくなる車が必ず出ていました。特に雪がシャリシャリのシャーベット状になるとはまりやすくなります。同時に、ゲートバーが設置され、カードがないと入れなくなり、2011年度から駐車場の会が作られて、除雪費として会費を払わなければならなくなりました。

平成 26 年度学部改組

2014 年度には同時に国際資源学部が秋田大学の四番目の学部として誕生しました。工学資源学部の地球資源学科が核となったわけですが、文系コース（資源政策コース）も持ち、



教育文化学部 210 名

学校教育課程	
教育実践コース	45 名
英語教育コース	10 名
理数教育コース	20 名
特別支援教育コース	15 名
こども発達コース	20 名
地域文化学科	100 名
地域社会コース	
人間文化コース	

文理融合をうたっています。本学部の一部の教員がこのコース担当として異動しました。この際、工学資源学部は理工学部へ改組し、教育文化学部は名称を変更しないものの、左のように大きな改組を行っています。

教育文化学部は 80 名の入学定員減となり、減員分の多くは国際資源学部に移り替えられました。2016 年度から、全国の教員養成系学部で多くの新課程（教員免許取得を義務づけない課程）が廃止される中で、新課程が学科に転換され、学部に残ったきわめて珍しいケースです。

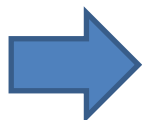
国際資源学部の一部が 2014 年度より教育文化学部 1 号館に入り、結果として、建物名称が国際資源学部・教育文化学部 1 号館と改称されました。2016 年度には 1 号館は国際資源学部のみとなり、1 号館の教育文化学部部分は 2 号館、3 号館、4 号館等に移動します。

2015 年度からは、2014 年の学校教育法改正（教授会権限の縮小）に対応して、学外者が入る教育研究カウンスル、学部運営カウンスル（合わせて「連携運営パネル」と呼ばれる）が置かれることになりました。教育研究カウンスルは①教育課程の編成、②教員の採用及び昇任等、③教育研究に関する規程等の制定・改廃、④教育研究に関する重要なことを審議する機関です。学部運営カウンスルは、①学科その他重要な組織の設置廃止、②予算、③運営に関する規程等の制定・改廃、④運営に関する重要なことを審議する機関です。

平成 28 年度研究科改組

教育学研究科 44 名

学校教育専攻	13 名
学校教育専修	
心理教育実践専修	
教科教育専攻	31 名
国語教育専修	
社会科教育専修	
数学教育専修	
理科教育専修	
音楽教育専修	
美術教育専修	
保健体育専修	
家政教育専修	
英語教育専修	



教育学研究科 26 名

教職実践専攻	20 名
学校マネジメントコース	
カリキュラム・授業開発コース	
発達教育・特別支援教育コース	
心理教育実践専攻	6 名
心理教育実践コース	

1989 年に教育学研究科は新設され、徐々に専修を増やしていきます。専修免許状が創設され、大学院修士課程卒の教員を増やそうとする教員政策に沿ったものでした。2002 年に心理教育実践専修が設置され、臨床心理士養成が始まります。

2016 年度から教育学研究科が改組され、教職大学院が立ち上がりました。教職実践専攻が教職大学院にあたり、教職修士（専門職）という専門職学位を出します。心理教育実践専攻は従来型の修士課程で、修士（教育学）の学位を出し、スクールカウンセラーを養成します。

戦争との関わり

現在、大学のグラウンド・体育館などがあるところ、線路までの一帯は戦前、陸軍練兵場でした。手形練兵場は 1896 年にできていて、秋田歩兵第 17 聯隊の軍事訓練が行われていました。兵舎は広小路のところにあり、そこから練兵場まで行進してきていたそうです。きっと当時の学生はその声や音を聞きながら、学習していたのでしょう。

第二次世界大戦との関わりですが、

1940 年度卒業生の同窓会誌『十六年会』（1971 年 8 月刊）には以下のような記述があります。

「思えば、生きがい教育に求めて入学し、よき師よき友に恵まれて卒業してからはや 30 年。激動の時代にあって、（略）合計 129 名中 51 名という卒業生の 4 割がこの世を去ってしまいました。この事実は、わたしたちがいかに生き難い不運な時代に生まれてきたかを如実に示すものであります。戦線が拡大された昭和 16 年に卒業し、ほとんどの友はただちに戦場にはせ参じ、51 名の友は、あるいは敵弾にたおれ、あるいは病魔におかされ不帰の客となったのであります。尊い国の礎とはいえ、それはあまりにも厳しく、あまりにも冷酷な現実であります。いま、慰霊の写真を前にして、その名前を読むとき、ありし日の恩師や友の姿がほうふつとして思い出されます。（略）」

戦争との関わりで言えば、1939 年に秋田県師範学校本科第二部に特別学級「大陸科」が設置され（4 月）、秋田県師範学校と秋田県立青年学校教員養成所から 22 名が満州勤労奉仕隊として送られ（7 月）、1940 年には 5 名が満州建国勤労報国隊として送られています。1941 年に秋田県師範学校に報国隊が結成され、1943 年からは陸軍、海軍の軍事講習、軍事教育、実弾射撃訓練、そして、勤労働員で、県内の農事作業や河川改修、ダム堤防工事等にかかり出され、東京、北海道、青森八戸、新潟直江津でも数ヶ月にわたり作業に従事しています。

学生寮

戦前より寄宿舎が設けられていましたが、戦後は、男子寮として啓明寮が、女子寮として明和寮がありました。男子寮は、秋田師範学校男子部があった保戸野にあり（現在の附属小学校の場所）、啓明寮と称していました。1965 年 3 月に新築されています。1995 年 3 月に廃止されました。また、女子寮は、1962 年 11 月に、秋田県より新築寄付されて、手形に置かれ、明和寮と称しました。1984 年 3 月より、全学の女子寮として、手形寮と呼ばれるようになります。



現在の手形寮（女子寮）

師範学校時代の校歌

現在、学部之歌はありませんが、1924（大正 13）年 9 月 18 日に、秋田県師範学校の創立五十周年記念で校歌が制定されています。「→」は手形から保戸野に移転後に改作された部分です。

- 1 天（あま）そそり立つ鳥海の
雪は朝日に輝きて
沃野（よくや）四十里（しじゅうり）分け下る
長江雄物（ちょうこうおももの）の行くところ
天地秀でて幸多し
我らはここに生を享く（うく）
- 2 名も明徳の学舎（まなびや）の
偉業を承けて立ちしより
理想の幟（しるし）いや高く
薫化（くんか）の績（いさを：功績・手柄のこと）いや深し
光栄のあと五十年→→→光栄のあと離々（りり：よく実っていること）として
我らが過去は光あり
- 3 今暗澹（あんたん）の雲翔（かけ）り→→→時うつろへどうつろわぬ
汚濁（おだく）の浪（なみ）荒ぶとも→→→理想のかげに啓示（さとし）あり
手形臺（台）上日は高く
→→→→→→→保戸野原頭（げんとう：野原のほとりのこと）日は高く→緑こめ
旭水（旭川のこと）の水とはに澄む
青春の血高鳴りて
我らが行く手は望（のぞみ）あり

校 歌

秋田県師範学校作曲
東京音楽学校教授 佐々木 武
校歌 佐々木 武 作曲

一、天そそり立つ鳥海の
雪は朝日に輝きて
沃野四十里分け下る
長江雄物の行くところ
天地秀でて幸多し
我らはここに生を享く

二、名も明徳の学舎の
偉業を承けて立ちしより
理想の幟いや高く
薫化の績いや深し
光栄のあと五十年
我らが過去は光あり

三、今暗澹の雲翔り
汚濁の浪荒ぶとも
手形臺上日は高く
旭水の水とはに澄む
青春の血高鳴りて
我らが行く手は望あり

校 歌

1910（明治 43）年 3 月 20 日制作の秋田県女子師範学校校歌は以下のようなものでした。

秋田県女子師範学校々歌（明治43年3月20日制定）
作 歌 教諭 赤 松 定 郷
作 曲 教諭 沢 保次郎

イ調 4/4 校 歌

5 | 1 - 1 1 | 1 2 3 4 5^V 1 | 2. 2 2 3 4 | 3 - 0
ミ ナ オ ト ター カー キ タ モ ノ ナ ガ レ

5 | 1 2 1 2 3 4 3 4 | 5 2^V 3 2 | 1 2 3 2 1 | 7 - 0
ユ キー カーゼ・キー タラ カイノミネ

5 | 7 4 2 7 | 5 4 3 2 1 7 5 | 5 - 7 6 | 5 - 0 0 |
ヤ ドメノマ ツノトハナル ミ ドーリ

1 - 1. 5 | 6 4 0 1 1 | 4 3 2 2 1 | 7 - 0
ア サ ユ フニ ワレ ラガマナビノ

5 | 5 - 4 - | 3 1 4 2 5 4 | 3 - 2 - | 1 - 0 ||
タ フー トー キー ス ガ タ

御くにのこさめわれ等か
城山松の秀でたるみさを
高峯のゆきのさやけき心
師となる道の歩も枉げす
とこしへに

世をこそてらさめをみなのかかみ
わざな磨きつ心なきた
もろともに

みことかしこみ教を守り
睦ひ交して學へるわれ等
わざな磨きつ心なきた
もろともに

あさひのひかり太平の色
足穂のいねの秋田の實り
窓にのきはに遠く近く
居ながらに

あさひのひかり太平の色
足穂のいねの秋田の實り
窓にのきはに遠く近く
居ながらに

あさひのひかり太平の色
足穂のいねの秋田の實り
窓にのきはに遠く近く
居ながらに

- 1 みなおとたかき雄物の流れ
 ゆきかぜ清き鳥海のみね
 矢留のまつのとはなる翠
 あさゆふにわれ等がまなびのとふと
 きすがた
- 2 あさひのひかり太平の色
 足穂のいねの秋田の実り
 窓にのきは（軒端）に遙けく近く
 居ながらにわれ等がまなびのつきせ
 めながめ
- 3 みこと（御言）かしこみ教を守り
 睦ひ交して（むつびかわして）学べ
 るわれ等
 わざを磨きつ心をきたえ
 もろともに世をこそてらさめをみな
 （女）の鏡
- 4 城山松の秀でたるみさを（操）
 高峯（たかね）のゆき（雪）のさや
 けき心
 師となる道の歩みも枉（ま）げず
 とこしへに御くに（国）にのこさめ
 われ等がいさを（績）

【参照】秋田大学教育学部創立百周年記念会『創立百年史 秋田大学教育学部』1973 年 10 月 9 日発行

H P 東北森林管理局「仁別森林鉄道」

（http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/introduction/gaiyou_kyoku/nibetu/7_tetsudou/index.html）